

令和4年9月23日（金）

日 本 緑 化 工 学 会

令 和 4 年 通 常 総 会

於：つくば国際会議場小会議室405

茨城県つくば市竹園2-20-3

－ 次 第 －

議 案

- (1) 第一号議案 令和3年度事業報告
- (2) 第二号議案 令和3年度決算報告
- (3) 第三号議案 令和4年度事業計画
- (4) 第四号議案 令和4年度収支予算
- (5) 第五号議案 会則の改定
- (6) 第六号議案 名誉会員の推挙
- (7) その他

日本緑化工学会 <http://www.jsrt.jp/>

(大会・学会会議関係)

9月21日 9:30～10:30 理事会 11:00～12:30 評議員会

<https://coac-co-jp.zoom.us/j/89419969289?pwd=T0lIWjNKK1dNZkF4NStwbDg5b1RIdz09>

9月23日 13:00～14:30 学会賞表彰式 および 定時総会

<https://coac-co-jp.zoom.us/j/87915741617?pwd=L015Z2pEcHpXRWdBUU9HK2JCdWZLdz09>

(14:30～15:00 大会閉会式・大会表彰式)

<https://coac-co-jp.zoom.us/j/83032388095?pwd=Sjl3Z2J0dlgvUXIrTjA0Wk8rTFczZz09>

第一号議案

日本緑化工学会 令和3年度事業報告

(令和3年／2021年8月1日～令和4年／2022年7月31日)

1. 第52回日本緑化工学会 Web 大会

開催年月日：令和3年9月10日～12日（Web 事前討議期間4日～10日）

開催方法：オンライン・Web 掲示板等による発表・討議

発表題数：74題（論文22件，技術報告22件，研究交流発表30件）

大会公開シンポジウム「自然環境と健康な街づくり－疫学調査を用いた研究事例紹介－」（9月11日）、
研究集会7件を会期中に開催

参加者数：188名

正会員・賛助会員 148名，学生 25名，一般（非会員）15名

優秀発表賞：3件

2. シンポジウム

(1) 第52回大会シンポジウム

テーマ：「自然環境と健康な街づくり－疫学調査を用いた研究事例紹介－」

開催年月日：2021年9月11日（土）13:00-15:30

開催場所：オンライン（Zoom ウェビナー）＋YouTube ライブ配信

（終了後1ヶ月 YouTube 上で動画公開）

参加者数：147名

3. 現地見学会

企画・事業部会の企画による見学会は行いませんでした。

4. 研究会等（研究部会主催） ※初出開催行事の日程順

(1) 生物多様性緑化研究部会

①ナラ枯れとその周辺課題について考える、連続講演会を（共催団体として）毎月1回オンライン開催

主催：明治大学農学部応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人世田谷トラストまちくり

第8回：2021年8月4日「参加者事例報告－生田緑地、国立科学博物館附属自然教育園、都立公園」

第9回：2021年9月15日「参加者事例報告－成城三丁目緑地、狭山丘陵都立公園、横浜市新治市民の森」

第10回：2021年10月27日「フクロウの森と小面積皆伐更新」掛下尚一郎

第11回：2021年11月24日「斜面防災における樹木のメリット・デメリット」山田守

第12回：2021年12月15日「大山隠岐国立公園奥大山地区におけるナラ枯れの現況」加藤ひなの

第13回：1月31日「こならの丘の植生管理計画」長久豊

第14回：2月24日「企業の社会貢献活動による植樹林の現状と管理方針の検討」重白さえ

第15回：3月23日「下鴨神社紉の森の植生構造に対する攪乱の影響」田端敬三

②シリーズ2 講演会「ナラ枯れを契機に自然を考え直す」

第1回：2022年4月20日「なぜコナラは里山に拡がったのか？」大住克博

第2回：2022年5月18日「多雪地ブナ二次林の価値を地域博物館で「見える化」する」小林誠

第3回：2022年6月29日「黒川農場自然生態園の10年間の植生管理計画とナラ枯れ対策」小泉寛明

第4回：2022年7月29日「ナラ枯れ対策指導の現場から」松本開地

(2) 生態・環境緑化研究部会

①研究集会の開催：2021年第52回大会の研究集会1として開催

日程：2021年9月10日（金） 16：30～18：00 ※Zoom ウェビナーにて開催

参加者：50名

テーマ：「実例・研究紹介ー地域活性化、地域性種苗使用の主流化を進めるには」

②学会誌第47巻3号にて緑化植物委員会と合同で特集「地域性系統の植物による緑化の必要性和その実践事例」を企画

③阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクトおよび関連の活動（阿蘇ワーキングチーム）

- ・現地活動 地域性種苗活用の現地流通仕組み作りや採取量、性状調査などを実施
- ・環境省九州地方環境事務所阿蘇くじゅう国立公園管理事務所と協力して草原構成種ススキを中心に地域性種苗として活用するための共同調査／活動を実施
- ・阿蘇草原再生協議会への参加
- ・現地活動への助成金：公益財団法人自然保護助成基金の協力型助成（2020年3月第4回理事会報告，「地域との協働による阿蘇の草原植物の活用と地域活性化」

④日本学術会議公開シンポジウム「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」において話題提供

開催日：2022年5月9日 会場：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）

発表題目：「阿蘇地域における地産資材を活用した災害復旧の取り組み」

(3) 積雪寒冷地緑化研究部会

①第52回大会（Web開催）において研究集会を開催

開催日時：2021年9月11日（土）15：30～17：00

開催方法：Web（Zoom）

テーマ：積雪寒冷地の法面保全に向けて一植生工の補強効果とその限界ー

参加者：67名

②第1回勉強会を実施

開催日時：2022年2月19日（土）10：30～15：00

開催方法：Web（Zoom）

テーマ：法面保全と緑化工技術のために①

参加者：37名

(4) 緑・健康研究部会

第52回大会（Web開催）において研究集会を開催

開催日時：2021年9月12日（日）12：30～14：00

開催方法：Web（Zoom）

テーマ：医療空間と緑化

参加者：40名

(5)都市緑化技術研究部会

第 52 回大会 (Web 開催) において研究集会を開催

開催日時：2021 年 9 月 12 日 (日) 14:15～15:45

開催方法：Web (Zoom)

テーマ：緑地の保水能とグリーンインフラ

参加者：45 名

(6) 乾燥地緑化研究部会

オンラインシンポジウム 2021 「乾燥地における植物の生理生態と緑化」を開催

日時：2021 年 12 月 11 日 (土) 13:30～16:40

方法：zoom ミーティング

共催：鳥取大学乾燥地研究センター、日本沙漠学会

後援：東京農業大学沙漠緑化研究部会/沙漠に緑を育てる会

参加者数：83 名

(7) 斜面緑化研究部会

現場事例に学ぶ斜面緑化勉強会 (第 10 回) ～最近の斜面・法面緑化の現場から～の実施

開催日時：2022 年 7 月 25 日 (月) 15:00～17:00

開催場所：東京農業大学世田谷キャンパス 1 号館 3 階 331 教室 (Zoom オンライン併用)

参加者数：約 50 名 (内約 40 名はオンライン参加)

(8) 海岸林・沿岸域緑化研究部会

学会誌第 47 巻 2 号にて特集「東日本大震災 10 年ー海岸林の復興とその先へー」を企画

(9) 第 52 回日本緑化工学会 企画研究集会

①企画担当：小宅由似会員

開催日時：2021 年 9 月 11 日 (土) 17:10～18:45

テーマ：植生回復の目標の置き方について考える

視聴者数：81 名

②企画担当：森本淳子会員、岡浩平会員

開催日時：2021 年 9 月 12 日 (日) 16:00～17:30

テーマ：生態的レジリエンスとグリーンインフラ

視聴者数：93 名

5. 学会誌の発行

(1) 第 47 巻 1 号 (デジタル版)：令和 3 年 8 月 31 日発行 222 ページ (第 52 回大会特集号)

(2) 第 47 巻 2 号：令和 3 年 11 月 30 日発行 115 ページ

(3) 第 47 巻 3 号：令和 4 年 2 月 28 日発行 87 ページ

(4) 第 47 巻 4 号：令和 4 年 5 月 31 日発行 111 ページ

※第 47 巻 2 号に特集「東日本大震災 10 年ー海岸林の復興とその先へー」「自然環境と健康な街づくり

「疫学調査を用いた研究事例紹介」を掲載

第 47 巻 3 号に特集「地域性系統の植物による緑化の必要性和その実践事例」「緑地の生態的レジリエンスとグリーンインフラ」「緑地の保水能とグリーンインフラ」を掲載

第 47 巻 4 号に特集「緑化学工としての市民、市民としての緑化学工」を掲載

6. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行

(1) Vol. 17 issue 4 : 2021 年 10 月発行 (15 編)

(2) Vol. 18 issue 1 : 2022 年 1 月発行 (13 編)

(3) Vol. 18 issue 2 : 2022 年 4 月発行 (11 編)

(4) Vol. 18 issue 3 : 2022 年 7 月発行 (11 編)

※2019 年発行分より, LEE 誌はオンラインジャーナルとして発行されている。

<https://link.springer.com/journal/11355/volumes-and-issues>

7. 令和 3 年度日本緑化工学会賞の授与

研究奨励賞 : 武井 理臣

「日本産ガマズミ属種子の形態生理的休眠の打破および早期発芽に関する研究」

研究奨励賞 : 西野 文貴

「シダ植物の増殖方法としての胞子発芽と前葉体成長に関する研究」

功績賞 : 森本 幸裕

「生物多様性に配慮した都市の緑化に関する研究および実践に関する功績」

8. CPD

第 52 回日本緑化工学会の公開シンポジウム及び 7 県の研究集会を森林・自然環境技術者教育センター (JAFEE) の CPD プログラムとして登録した。CPD ポイントは、建設系 CPD13 名、森林系 4 名合計 17 名の参加者に CPD ポイントを付与した。

9. 学会広報事業

(1) 総務部会 HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営

(2) 公式ブログの運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>

(3) メールによる案内「ニュースメール」の配信

アドレスが登録されている個人会員と、登録要請のあった賛助会員へ連絡事項を配信

10. 研究部門におけるその他活動

(1) 防災学術連携体における活動

①防災学術連携体 総会に参加 (小川委員、寺本委員、オブザーバー参加 田中氏)

開催日 : 2022 年 8 月 2 日 (火)

②防災連携委員の交代

2022 年 8 月の防災学術連携体総会をもって小川委員から田中淳氏に交代、連携委員は寺本委員と田中委員の 2 名となる。

③各種集会等の告知と参加

- ・防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2021 シンポジウム参加の告知
- ・仙台防災枠組 2015-2030 のグッドプラクティス募集の告知
- ・第 13 回防災学術連携シンポジウムの告知と発表（生態・環境緑化研究部会 中村氏）
「阿蘇地域における地産資材を活用した災害復旧の取り組み」内田泰三氏・中村華子氏
開催日：2022 年 5 月 9 日（月）

11. 緑化植物の取り扱い方の検討（緑化植物委員会）

(1) 第 52 回大会（ウェブ大会）における研究集会の実施

開催日時：2021 年 9 月 12 日 9:30～11:30

開催方法：ウェブ（Zoom ウェビナー）

テーマ：提言 2019 に対応した緑化植物材料選定の考え方（案）について

視聴者数：82 名

(2) 日本緑化工学会誌における特集の企画と執筆

日本緑化工学会誌 47 巻 3 号において、生態・環境緑化研究部会と共同で特集「地域性系統の植物による緑化の必要性とその実践事例」を企画・執筆した。

(3) 次期生物多様性国家戦略に関する意見の提出

学会を通じて、外国産在来緑化植物の使用禁止と地域性系統の植物の使用促進についての意見を環境省に提出した。

(4) 緑化植物の取り扱い方の検討

2021 年 9 月 1 日、9 月 24 日、10 月 22 日、12 月 21 日、2022 年 4 月 13 日、5 月 31 日に計 6 回の会議を開催し、提言 2019 のビジョンの実現に向けたガイドラインの内容について検討を行った。

12. その他事業

他団体等からの依頼に応じて適宜後援、広報に協力（今年度は該当行事なし）

13. 会員数（令和 4 年 7 月末現在。括弧内は←前年度末，←前々年度末，←前々々年度末 の数）

- (1) 名誉会員：9 名（←9 名 ← 8 名 ← 8 名）
- (2) 正会員：554 名（←560 名 ← 569 名 ← 573 名）
- (3) 学生会員：74 名（←65 名 ← 80 名 ← 72 名）
- (4) 賛助会員：53 団体（←53 名 ← 51 団体 ← 51 団体）
- (5) 購読会員：32 団体（←33 名 ← 35 団体 ← 34 団体）

※ 大会発表のため入会する学生会員に対する会費の優遇措置を、2015 年度より実施，継続

2021年度 収支報告書

(2021年 8月 1日 ～ 2022年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入の部	正会員費	4,400,000	4,378,000	-22,000	99.50	正 会 員 550名 / 今年度入金 547名 (@8,000)
	賛助会員費	1,820,000	1,855,000	35,000	101.92	賛助会員 52団体 / 今年度入金 53団体 (@35,000)
	購読会員費	280,000	288,000	8,000	102.86	購読会員 35団体 / 今年度入金 36団体 (@8,000)
	学生会員費	200,000	228,000	28,000	114.00	学生会員 50名 / 今年度入金 57名 (@4,000)
	入会登録料	24,500	36,400	11,900	148.57	52名 (@700)
	英文誌購読料	330,000	345,860	15,860	104.81	
	投 稿 料	500,000	853,000	353,000	170.60	Vol.47-1 ～ Vol.47-4 分
	広 告 料	1,300,000	1,310,000	10,000	100.77	Vol.47-1 ～ Vol.47-4 分
	雑 収 入	1,000,000	949,460	-50,540	94.95	別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息等
	小 計	9,854,500	10,243,720	389,220	103.95	
	繰 越 金	4,395,721	4,395,721			
	合 計	14,250,221	14,639,441	389,220	102.73	
支出の部	会 議 費	50,000	0	-50,000	0.00	理事会会議室借上げ費
	旅費交通費	100,000	0	-100,000	0.00	理事会交通費、対面開催は1回とし、他はWeb会議・メール会議とする
	事務人件費	215,000	172,456	-42,544	80.21	口座振替システム基本料金、HP・ML管理費、サーバレンタル料
	通 信 費	700,000	584,326	-115,674	83.48	学会誌・会費請求書発送費、電話・FAX料
	事務用品費	100,000	17,418	-82,582	17.42	学会賞賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	4,900,000	4,318,910	-581,090	88.14	学会誌編集・製作委託費(大会号オンライン化・希望者冊子)、J-Stage登録費用
	英文誌出版分担金	500,000	484,400	-15,600	96.88	英文誌出版分担金、英文誌購読料、英文誌刊行事務委託費
	大会補助費	200,000	0	-200,000	0.00	大会開催補助費
	研究部会補助費	200,000	0	-200,000	0.00	
	委員会等経費	400,000	31,296	-368,704	7.82	会議室使用料、旅費(編集委員会・緑化植物委員会)
	事務委託費	1,920,000	1,912,460	-7,540	99.61	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等)
	諸会費	160,000	140,000	-20,000	87.50	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	災害特別対策費	25,000	0	-25,000	0.00	災害調査費用 他
	雑費	30,000	5,820	-24,180	19.40	振込手数料 他
	基金積み立て	0	0	0	-	
	小 計	9,500,000	7,667,086			
	予備費	4,750,221	6,972,355	2,222,134	146.78	
	合 計	14,250,221	14,639,441	389,220	102.73	

次期繰越金	6,972,355
-------	-----------

2021年度 日本緑化工学会の収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2022年8月23日

日本緑化工学会経理担当理事 入山 義久



2021年度 貸借対照表 (和文誌・英文誌)

2022年 7月 31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	22,583	前受け会費	1,304,000
預 け 金	8,324,431	基金	1,130,009
未 収 金	1,059,350	次期繰越金	6,972,355
合 計	9,406,364	合 計	9,406,364

－ 財 産 目 録 －

資産の部

科 目	摘 要	金 額
現 金	事務局	22,583
預 け 金	みずほ銀行 本郷支店	2,756,477
	本郷郵便局	4,437,945
	三井住友	1,130,009
	小 計	8,324,431
未 収 金	BN販売	6,350
	別刷り代	286,000
	投稿料	97,000
	会費	270,000
	広告費	400,000
	小 計	1,059,350
合 計		9,406,364

負債の部

科 目	摘 要	金 額
前受け会費	正会員	1,134,000
	学生会員	104,000
	英文購読料	66,000
	小 計	1,304,000
合 計		1,304,000

－ 会 計 監 査 報 告 －

2021年度(2021年 8月 1日 ～ 2022年 7月31日) 収支決算報告書および財産目録に基づき、帳簿類を監査したところ、適正であることを認めます。

2022年8月23日

2021年度 日本緑化工学会

同上

監事 吉崎 真司

監事 田中 賢治



2021年度 基金 収支報告書

(2021年 8月 1日 ~ 2022年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収 入 の 部	前期より繰り越し	1,130,000	1,130,000	0	-	
	利子収入	0	9	9	-	
	一般会計より戻し入れ	0	0	0	-	新規積み立て
	合 計	1,130,000	1,130,009	9	100.00	
支 出 の 部	一般会計へ繰り入れ	0	0	0	-	
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合 計	0	0	0	-	

次期繰越金		1,130,009
-------	--	-----------

2021年度 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト収支報告

2021年4月1日～2022年3月31日

日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会

	費 目	決算額	摘 要
収入の部	公財自然保護助成基金 助成金	1,000,000	2021年4月 公益財団法人自然保護基金より入金
	寄附金	92,051	
	繰越金	145,200	2020年度未払い分(東興ジオテック種子検査費用)
	合 計	1,237,251	
	資材費	55,895	調査、活動用資材購入費用等
	消耗品費	42,357	消耗品購入費用等
	委託費	200,676	種子調整作業依頼(東京農大)
	賃金・謝金	40,000	謝金等
	旅費	440,644	現地活動旅費、移動費用
	交通・通信・運搬費	20,440	宅配料金、現地輸送費
	印刷費	20,520	
	会議費	8,850	会場使用料
	雑経費	262,669	振込手数料／種子調整・管理借り受け費用
	小 計	1,092,051	
	前期未払い金(種子検査費用)	145,200	東興ジオテック 2021／8月支払い
	合 計	1,237,251	2022年5月 助成期間終了・内容確定済み

次期繰越金	0
-------	---

2021年度 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクトの収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2022年7月1日

上記内容に相違が無いことを確認しました。
2022年9月17日
日本緑化工学会経理担当理事 入山義久



第三号議案

日本緑化工学会 令和4年度事業計画（案）

（令和4／2022年8月1日～令和5／2023年7月31日）

1. 第53回日本緑化工学会大会 3学会合同大会「ELR2022 つくば」として開催

開催年月日：令和4年9月20日～23日

開催地：つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園）および周辺

発表題数：283題（口頭発表 107件、ポスター発表 176件）

うち、当学会発表 85件（論文 15件、技術報告 35件、大会発表のみ 35件）

エクスカーショントーク（小貝川コース・筑波山コースの2コース）を実施（9月20日）

公開シンポジウム「Nature-positiveを実現させるにはー2030年にむけてー」（9月21日）を開催

自由集会（企画研究集会） 16件 会期中に開催

※ 第54回大会は、2023年9月に開催予定。

2. 研究会等

(1) 生物多様性緑化研究部会

「ナラ枯れを契機に自然を考え直す、オンライン連続講演会」を（共催団体として）毎月1回開催

主催：明治大学農学部応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人世田谷トラストまちくり

第5回：2022年8月24日「森が元気に、人が元気に！ 矢作川 森の健康診断」

第6回：2022年9月29日「クビアカツヤカミキリの市民科学的調査」

第7回：2022年10月19日「2022年のナラ枯れをふりかえる」ML参加者（予定）

その後も月1回程度開催予定

(2) 海岸林・沿岸域緑化研究部会 第4回公開勉強会【オンライン】の開催

テーマ：「海岸の連続性を考える」

開催日時：2022年8月26日（金）17時～19時

開催方法：オンライン開催（zoom）

(3) 都市緑化技術研究部会

2022年大会（ELR2022 つくば）にて、研究集会を企画

開催日時：2022年9月21日（水）16:45～18:30 会場：小会議室 406

テーマ：ポストコロナ時代の魅力的な都市緑地を考える

(4) 斜面緑化研究部会

① 2022年大会（ELR2022 つくば）にて研究集会を企画

開催日時：2022年9月21日（水）18:45～20:30 会場：小会議室 406

テーマ：高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える

② 「現場事例に学ぶ斜面緑化勉強会」を年3～4回のペース（12月，3月，6月，9月）で開催予定

③ 現場見学会の開催

(5) 生態・環境緑化研究部会

① 2022 年大会（ELR2022 つくば）にて研究集会を企画

開催日時： 2022 年 9 月 22 日(木) 16:45～18:30 会場：小会議室 303

テーマ：30by30 を見据えて進める地域性種苗緑化の取り組み

② 阿蘇の自然再生プロジェクト（仮称）の継続（阿蘇ワーキングチーム）

③ 環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所と連携して地域性種苗の利活用促進に関わる活動を継続

（2022 年度地域性種苗緑化の試験施工に関わる助言を行う「令和 4 年度阿蘇くじゅう国立公園における地域性種苗による緑化普及検討業務」を依頼され、締結）

(6) 緑・健康研究部会

オンラインセミナーを企画

開催日時：2022 年 11 月～2 月の間で開催予定

テーマ：「緑化学分野における研究倫理について（仮題）」

(7) 乾燥地緑化研究部会

シンポジウムを企画（オンライン開催）

開催日時： 2023 年 1 月～3 月の間で開催を予定

テーマ：未定、調整中

(8) ELR2022 つくば 企画研究集会

①企画担当：緑化植物委員会

開催日時：2022 年 9 月 23 日（金）15:00～17:00 会場：小会議室 405

テーマ：生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関するガイドラインの検討状況について

②企画担当：今西亜友美会員・岡浩平会員

開催日時：9 月 21 日(水) 16:45 ～ 18:30 会場：小会議室 405

テーマ：OECM で生きる！生物多様性に配慮した緑化学

③企画担当：小林達明会員・森本淳子会員・岡浩平会員

開催日時：9 月 21 日(水) 18:45 ～ 20:30 会場：小会議室 405

テーマ：生態系のレジリエンスと修復・緑化

④企画担当：平林 聡会員・加藤 顕会員

開催日時：9 月 22 日(木) 18:45 ～ 20:30 会場：小会議室 303

テーマ：i-Tree による生態系サービス評価・事例紹介と今後の課題

（現在活動中の緑化工研究部会）

斜面緑化研究部会	都市緑化技術研究部会	生態・環境緑化研究部会
乾燥地緑化研究部会	積雪寒冷地緑化研究部会	緑・健康研究部会
生物多様性緑化研究部会	海岸林・沿岸域緑化研究部会	

3. シンポジウム

(1) ELR2022 つくば 公開シンポジウム

開催年月日：2022 年 9 月 21 日（水） 13：30 ～ 16：30

会場：つくば国際会議場 中ホール（Web 配信を併用）

テーマ：「Nature-positive を実現させるにはー2030 年にむけてー」

(2) その他、企画シンポジウムを年 1 回以上開催予定。

4. 現地見学会

年 1 回以上開催予定。

5. 緑化工セミナー（記念・企画事業） ※新規事業

日本緑化工学会 30 周年記念事業として「緑化工セミナー」を企画・開催。学会の諸活動を PR すること、学生や若手に活動内容を積極的に伝え当学会の魅力を伝えることを目的として「緑化工セミナー」を実施。「研究部会セミナー」（研究部会の活動内容をわかりやすく紹介）、「未来の緑化工セミナー」（若手による研究紹介、新博士紹介）、「技術を学べるセミナー」（緑化技術に関する発表・セミナー）の 3 部構成で開催。

(1) 未来の緑化工セミナー

開催日程：2022 年 8 月 24 日 話題提供：小宅由似（香川大学）

テーマ：3 つのレベル＋形態の生物多様性を目指した緑化

参加人数：40 名

6. 学会誌の発行：4 回発行予定（第 48 巻 1 号～4 号）

第 48 巻 1 号（デジタル版）：令和 4 年 8 月 31 日発行 229 ページ（第 53 回大会特集号）

第 48 巻 2 号：令和 4 年 11 月末 発行予定

第 48 巻 3 号：令和 5 年 2 月末 発行予定

第 48 巻 4 号：令和 5 年 5 月末 発行予定

- ・オンライン投稿システム(Editorial Manager)の導入を開始する。
- ・通常号の電子ジャーナル化を進める。

7. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行：

4 回発行予定（Vol. 18 issue 4, Vol. 19 issue 1, issue 2, issue 3）

8. 学会賞の授与

令和 4 年度日本緑化工学会賞の授与（令和 5 年総会にて授与予定）

9. CPD

ELR2022 のエクスカッション、公開シンポジウム、研究集会および研究発表について、森林・自然環境技術者教育センター（JAFEE）の CPD プログラムとして登録し、CPD ポイントを付与する。

10. 学会広報事業

(1) 総務部会 HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営

(2) 会員向け連絡「ニュースメール」の配信，体制確保

(3) 公式ブログの運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>

11. 緑化植物の取り扱い方の検討（緑化植物委員会）

会議を 6 回程度開催し，「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関する提言 2019」のビジョンの実現に向けたガイドラインの作成を進める。大会では研究集会を開催し，検討中の地域性系統の植物材料の調達範囲設定の考え方（案）や緑化目標の設定（案）などについて意見を収集する。

12. その他

(1) 防災学術連携体における活動

① 総会，WEB研究会及び連絡会に参加予定。

② 防災学術連携体からの参加募集の中で日本緑化工学会が参加できる内容を告知し、随時対応する予定。

(2) 後援・共催等

他団体等からの依頼に応じて適宜後援、広報に協力

・ 日本緑化工協会 技術講習会の後援・講師の派遣（2022 年 9 月 15 日～16 日 東京都）

令和4(2022)年度 予算書 (案)

令和 4年 8月 1日 ~ 令和 5年 7月31日

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	令和 3 年度 決算額 (B)	決算額との 差額	摘 要
収 入 の 部	正会員費	4,400,000	4,378,000	22,000	550名@8,000
	賛助会員費	1,820,000	1,855,000	-35,000	52団体@35,000
	購読会員費	256,000	288,000	-32,000	32団体@8,000
	学生会員費	200,000	228,000	-28,000	50名@4,000
	入会登録料	24,500	36,400	-11,900	35名@700
	英文誌購読料	132,000	345,860	-213,860	2023年Online無料化、冊子33名@4,000
	投 稿 料	500,000	853,000	-353,000	
	広 告 料	1,000,000	1,310,000	-310,000	
	雑 収 入	1,000,000	949,460	50,540	別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息等
	小 計	9,332,500	10,243,720	-911,220	
	繰 越 金	6,972,355	4,395,721	2,576,634	
	合 計	16,304,855	14,639,441	1,665,414	
支 出 の 部	会 議 費	50,000	0	50,000	理事会 会議室借上げ費
	旅費交通費	100,000	0	100,000	理事会交通費、対面開催は1回とし、他はWeb会議・メール会議とする
	事務人件費	335,000	172,456	162,544	口座振替システム基本料金、HP・ML管理費、サーバレンタル料
	通 信 費	330,000	584,326	-254,326	会費請求書発送費、電話・FAX料、Zoomライセンス(2契約)
	事務用品費	100,000	17,418	82,582	学会賞賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	4,000,000	4,318,910	-318,910	投稿査読等システム・J-stage掲載料、冊子体印刷製本発送、投稿手数料補助費
	英文誌出版分担金	700,000	484,400	215,600	英文誌出版分担金、英文誌購読料前受金返金(相殺処理)
	大会補助費	200,000	0	200,000	大会開催補助費
	研究部会補助費	700,000	0	700,000	研究部会活動費補助
	委員会等経費	400,000	31,296	368,704	会議室使用料・旅費、編集委員会(通常号)・編集委員会(大会号論文部門・技術報告部門)・緑化植物委員会
	事務委託費	1,850,000	1,912,460	-62,460	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等)
	諸会費	160,000	140,000	20,000	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	災害特別対策費	25,000	0	25,000	災害調査費用 他
	雑費	30,000	5,820	24,180	振込手数料 他
	記念事業費	50,000	0	50,000	
	基金積み立て	0	0	0	
	小 計	9,030,000	7,667,086	1,362,914	
	予備費	7,274,855	6,972,355	302,500	
	合 計	16,304,855	14,639,441	1,665,414	

2022年9月17日

日本緑化工学会経理担当理事 入山 義久

2022年度 基金 予算（案）

	勘定科目	予算額	備考
収入の部	前期より繰り越し	1,130,009	
	利子収入	9	
	一般会計より戻し入れ	0	
	合 計	1,130,018	
支出の部	一般会計へ繰り入れ	0	
	一般会計へ貸し出し	0	
	合 計	0	残高予定 ¥ 1,130,018
次期繰越金		1,130,018	

日本緑化工学会会則（2022年総会改定案）

昭和41年12月16日制定〔日本緑化工研究会〕
平成元年5月30日改定〔日本緑化工学会〕
令和4年9月23日改定（案）

（旧） 現会則 改定部分に下線

（新） 会則 改定案

第1章 総則

（省略）

第3条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1） 緑化に関する研究、調査ならびに普及
- （2） 研究発表会、研究会、技術検討会、講演会、及び見学会等の開催
- （3） 「日本緑化工学会誌」 （和文誌） の刊行
- （4） 「Landscape and Ecological Engineering」 （欧文誌） の共同刊行
- （5） 図書、資料等の発行
- （6） 緑化に関する学術交流
- （7） 日本緑化工学会賞の授与
- （8） その他本会の目的達成に必要な事業

第2章 会員及び会費

（省略）

第7条 本会の会費は次のとおりとする。

- （1） 正会員 年額 8,000 円
- （2） 賛助会員 年額 35,000 円以上
- （3） 購読会員 年額 8,000 円
- （4） 学生会員 年額 4,000 円
- （5） 名誉会員 会費を納めることを要しない

2. 欧文誌を購読する場合は以下の購読費に消費税を加えた金額を追加する。

- （1） オンライン購読のみ 年額 4,000 円
- （2） オンライン＋冊子購読 年額 8,000 円

（省略）

第1章 総則

（省略）

第3条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1） 緑化に関する研究、調査ならびに普及
- （2） 研究発表会、研究会、技術検討会、講演会、及び見学会等の開催
- （3） 「日本緑化工学会誌」 の刊行
- （4） 「Landscape and Ecological Engineering」 （英文誌） の共同刊行
- （5） 図書、資料等の発行
- （6） 緑化に関する学術交流
- （7） 日本緑化工学会賞の授与
- （8） その他本会の目的達成に必要な事業

第2章 会員及び会費

（省略）

第7条 本会の会費は次のとおりとする。

- （1） 正会員 年額 8,000 円
- （2） 賛助会員 年額 35,000 円以上
- （3） 購読会員 年額 8,000 円
- （4） 学生会員 年額 4,000 円
- （5） 名誉会員 会費を納めることを要しない

2. 英文誌を冊子で購読する場合は以下の金額を追加する。

- （1） 英文誌冊子購読費 年額 4,000 円＋消費税

（省略）

（附則の追加）

附則 この会則は令和4年9月23日から施行する。

（以 上）

第六号議案

名誉会員の推挙

氏名：森本幸裕氏

推挙理由：

森本幸裕氏は京都大学において「緑地における樹木生育基盤に関する研究」によって農学博士号を取得され、当初から植栽基盤に関する研究に取り組まれてきました。その成果は、日本造園学会の植栽基盤整備マニュアルや日本万国博覧会記念公園（万博公園）の森づくりなどに活かされています。万博公園では、生物多様性に配慮した森づくりのためのパッチ状間伐や森林表土の導入に関する研究や実践にも取り組まれました。その後は、ランドスケープ・エコロジーの概念を取り入れた都市生態系の実態解明に関する一連の研究や、京都市梅小路公園ビオトープ「いのちの森」の長期モニタリングによる都市自然の再生過程に関する研究などにも取り組まれました。また近年は、自然攪乱を許容するインフラ整備のあり方や、都市において雨庭を普及するための研究や実践にも取り組まれています。森本氏はこれまでに緑化分野を中心に多数の論文を発表され、『ミティゲーション—自然環境の保全・復元技術』や『いのちの森—生物親和都市の理論と実践』、『最新 環境緑化学』など緑化に関する著作物も多く出版なさっています。日本緑化工学会では 2005～2007 年に会長を務められ、2004 年には日本緑化工学会を含む日本・韓国・台湾の複数の学会の連合体である International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE) の発足に尽力され、2011～2014 年に ICLEE 会長を務められるなど学会活動にも大きく貢献して来られました。

以上のように森本氏は緑化工学の発展に顕著な功績を収められており、今後も引き続き名誉会員として本学会に対してご指導を賜りたく、ここに森本幸裕氏を名誉会員として推挙いたします。

今西純一（大阪公立大学）

柴田昌三（京都大学）